
ねこっ子が恩返し！

零歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねこつ子が恩返し！

【Zコード】

Z2416E

【作者名】

零歌

【あらすじ】

家の事情でとあるアパートに引越した”かわさみよ苅澤水夜”。夜中まで続いた部屋の片付けを終え、眠りに就こうとした時、天井に猫？が張り付いてるのに驚いて…。水夜と猫つ子の楽しいギャグ生活の始まり！

第一話 猫の不法侵入（前書き）

内容が「ちやーちやー」です。が、それでも構わないと書いた方のみお読み下さい m(ーー)m

第一話 猫の不法侵入

「……よしひー、こんなもんか！」

私は部屋中に広がっていたダンボールを畳み、台所の隅に置いて、部屋を見渡した。

今日の朝に引越して来て、荷物がかなり積まれてた部屋。今ではかなりすっきりしている。……と思つ。

やっぱアパートとなると部屋は小さいね！まあ、こんくらいが一人暮らしに調度良いっつーか。

「うん！山積みだった荷物や散らかった部屋が綺麗になつてるとつきりするわね！」

私は腰のベルトに掛けていた時計（犬のキー ホルダーの腹が時計になつてる）を見た。

「あー……もうこんな時間……。もう夜明けだし……。」

どんだけ片付けてたんだ……（汗）

えーっと……片付けは、荷物の運び込みとかが終わって、電話に出でて……。昼食食べてすぐに始めたんだつけ？

……で、昼食食べ終えたのが……2時半位だったつけ？

うん、2時過ぎに食べたんだもん。

私食べるの遅いし、そん位に食べ終えてもおかしくない。

で、今は一、午前4時26分。

あ、今27分になつた。

私は欠伸を一つ漏らし、顔を洗い、歯を磨き、パジャマに着替えて、布団を敷いて寝転がる。

うん、明日ベッド見に行こ。

そう思い、寝返りうち、天井を見上げる状態になつた。

4

な、何つ！？

ちょ、何つ！？

今、え、ちょつ！？

私が叫び、布団から起き上がった理由。
それは……

「で、天井に何か居た…………つ――！」

部屋が暗いからよく見えないけど、なんか黒い物体が天井に……！

「ちょ、で、電気つ！？！」

私は急いで布団から出る。

そして部屋の電気を点けてもう一度天井を見る。

「…………。」

『二』、『三』

「ああ！なんだ、ねこさんかー。もつ脅かせないでよねえ……」

つて、

「いやいやいやいやつ！…………おつかしいだらつ…………？？何で天井に猫つ！？つか猫にしちゃテカイつて！－絶対猫じゃないつて

！」

反応するか分からぬケド、なんとなく天井に張り付いてるものに
対してツツ「んだ。

『いいえ、これでも猫なんです。』

つか反応しちゃつたよつー

「猫が喋るわけないでしょつー！」

『僕は別なんです。』

「別な猫なんてあるかいつー！」

『あります。』

冷静に『あります』とか言われるとなあ……。

『……僕が猫だと言つて証拠に、ほら。』

と、自分の頭と腰下を指差す。
そこには、

『尻尾と耳です。』

『…………や、そーですね……。』

確かに、ソイツの頭でぴこぴこ動いている双つのソレは猫耳であり、
ソイツの尻の少し上でゆらゆらと揺れている長いのは猫の尻尾。

マジで猫なんだな……。

「えーっと……取り敢えず、降りて来てくんない？それ、まるでホ
ラー……」

『……。』

天井に張り付いていた猫だと言い張るソイツは一つ溜息を零し、ト
ンッと静かに天井から降りた。
本当に静かに、物音なんて殆ど聞こえなさそうなくらいに。

それでようやくソイツの顔を初めて見た。
ソイツの顔を見て私は驚いた。

「…………お、おんな……の子……？」

『そうですが？』

「こ、声とか一人称とか、なんか男の子っぽいかな、とか思つてたん
だケド……違つたみたいだな……。」

「あ、はあ……。って、なーんでアンタみたいな子供が『猫です。
子供じやありません。』…………。」

その背丈に顔を見て、アンタを子供と言わざしてなんて呼ぶんだよ。
だからと言つて猫だなんて呼べるような姿でもないし……。
……いや、人間とも呼べないんだケド。

「えーっと……、なんでアンタ、私の家の天井に居るんだよ？」

『おじやましました。』

おじやましました、じゃなくて。

『貴女、名前は？』

「はあ？普通、名前聞く時は自分から名乗らない？」

『僕、主様も居ないんで名前無いんです。』

何、その微妙な設定。

「あつや。…私は^{カルサワミコ}苑澤水夜。」

『なら、カルサワミコ、僕を此処に置いて頂けます…
ふやけるな。』

『なつー！』

私は言葉を遮り、即答した。

そして私はその無礼な猫の首根っこを掴み、玄関の外に

『うわあつー！』

放り投げた。

「では、ようなら。」

私はどこか黒い笑顔で、その猫に手を振った。

『な、人間の癖につ！！』

「つむせ、家探してんなら人ん家に居ないで、不動産屋行け。」ば
たんつ！

私は勢い良く扉を閉め、鍵をちゃんと閉めてドアガードを立てた。
そして部屋に行き、窓の鍵を閉め、カーテンも閉める。
部屋の電気を消し、布団に潜った。

もう、マジふざけんな。

疲れた！何で引越し早々疲れなきやならないんだ！

うん、もう寝よう。

どうせあの子供はもうやつては来ない。
うん。

そつ自分に良い聞かせ、眠る。

でも、その考えはかなり甘かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2416e/>

ねこっ子が恩返し！

2011年1月26日16時38分発行